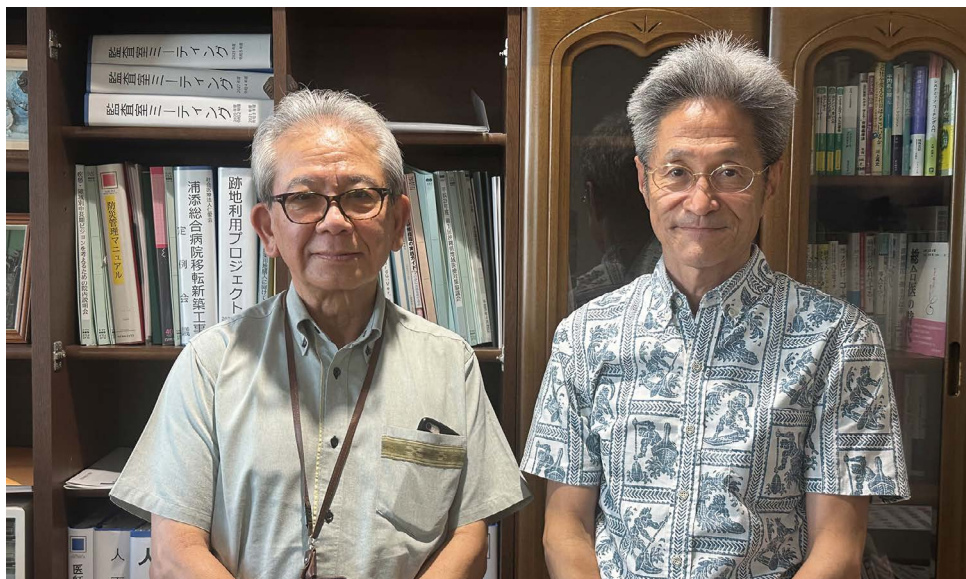


全日本病院協会 沖縄支部長 銘苅 晋 先生



全日本病院協会 沖縄支部長 銘苅 晋 先生

広報委員 出口 宝 先生

出口先生> 先生は、2024年8月に全日本病院協会沖縄支部長へご就任されました。改めて、ご就任おめでとうございます。

本日は、以後「全日本病院協会」を「全日病」と略してお話を伺います。

はじめに、本会会員の中には全日病について詳しくご存じない先生方もいらっしゃると思います。まずは、全日病の役割や主な活動についてご紹介いただけますでしょうか。

銘苅先生> 全日本病院協会（全日病）は、主に日本の民間病院を中心に構成される病院団体の一つです。民間病院が主体ではありますが、公立病院も加盟しており、沖縄県内では現在49施設が加盟しています。公立病院では那覇市立病院もその一つです。

全日病の定款では、「全国の病院の一致協力によって病院の向上発展とその使命遂行に必要

な調査研究などの事業を行い、公衆衛生の向上、地域社会の健全な発展に寄与すること」を目的としています。

その主たる役割は3つあります。

まず1つ目は、「社会保障制度や医療制度、病院に関係する各種制度の調査研究、および医療政策や診療報酬に関する提言」です。病院経営定期調査をはじめとした様々な調査を行い、病院の現場の声を国の医療政策へ反映させる重要な役割を担っています。

2つ目は、「病院経営と医療の質の向上に関する事業」です。具体的には、DPCデータの分析事業や診療アウトカムの評価事業をはじめ、病院機能評価の受審を支援するセミナーや受審支援事業などを実施し、病院の質向上に取り組んでいます。

3つ目は、「医療従事者の育成と研修」です。医師や看護師だけでなく、コメディカル、病院

事務職、経営幹部まで幅広い職種を対象とした研修会や資格認定講座を開催し、病院全体の人材育成を支えています。医療安全管理者養成講習会や病院経営研修、病院機能評価受審支援など、多岐にわたる研修が年間を通して実施されています。

沖縄県では、本土で開催される研修への参加には地理的な制約があります。そのため、近年増えてきたeラーニングやオンライン研修のさらなる充実を要望しています。

また、毎年開催される全日本病院学会も全日病の重要な事業の一つです。昨年は北海道で開催され、沖縄県からは29題の演題発表がありました。さらに、全国持ち回りで開催される夏季研修会は2年後に沖縄県で開催される予定であり、現在その準備を進めています。

出口先生> 先生は、支部長にご就任されて約1年10か月が経過しましたが、それ以前から沖縄支部の活動に長年携わってこられました。そこで、これまでの活動を振り返って特に印象に残っている出来事や、今後の沖縄支部の展望についてお聞かせください。

銘苅先生> 全日病の会員は各施設の代表者1名となっており、私は仁愛会の理事長就任に伴い、2020年7月から全日病の会員となりました。同時に沖縄県支部の理事に就任しましたが、これは当法人の前理事長である宮城敏夫先生が全日病本部の役員として積極的に活動され、そのご縁もあって推薦いただいたものだと考えています。その後、2022年に副支部長、2024年からは支部長を務めています。

しかし、私が役員となった2020年以降は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、2023年頃までは沖縄支部の活動も定期的な理事会・総会や全日本病院学会への参加が中心で、それ以外の活動はほとんど実施できませんでした。そこで支部長就任後は、「会員にとって関心の高いテーマを取り上げ、中央から講師を招いて講演会を開催する」ことを活動方針の一つとし



ました。

2024年度は、当時全日病副会長であり、厚生労働省の委員会で全日病を代表されていた織田正道先生を講師にお迎えし、「かかりつけ医機能制度」をテーマにご講演いただきました。

2025年度には、厚生労働省の新たな地域医療構想に関する検討会委員を務められていた全日病前会長・名誉会長の猪口雄二先生をお招きし、「病院経営危機～新たな地域医療構想とは～」をテーマにご講演いただきました。さらに今年度は、全日病会長の神野正博先生をお迎えし、「医療DXについて」をテーマとした講演会を予定しています。

また、昨年度からは人間ドック実施指定施設の指定に関する調査・審査業務が中央から各県支部へ移管され、沖縄支部でも県内施設の審査を担当しました。加えて、2年後には全国の支部長や会員が参加する全日病夏季研修会が沖縄県で開催される予定となっており、現在その準備を進めています。

そのほかの業務としては、全日本病院学会雑誌に投稿された論文の査読があります。これまでは中央の役員が担当していましたが、現在は各県支部でも分担して査読を行う体制となっており、沖縄支部でもその役割を担っています。

出口先生> 支部としての活動は大変ご多忙ですね。さて、全日病には、日本医師会のJMAT（日本医師会災害医療チーム）に相当する災害医療支援組織として「AMAT」があります。

沖縄県では現在どのような活動が行われているのでしょうか。

銘苅先生> 私が支部長を引き継いだ時点では全日病沖縄支部として AMAT に関する積極的な活動はしていないと思います。

出口先生> AMAT 養成研修の多くが本土で開催されることもあり、沖縄県では現時点では十分な体制整備には至っていないようです。

さて、話題を変えます。

近年は、物価やエネルギー価格の高騰に加え、人件費の上昇などにより、病院経営は全国的にかつてないほど厳しい状況となっています。このような状況の中で、全日病ではどのような活動や政策提言に取り組まれているのでしょうか。

銘苅先生> 全日病では、神野正博会長を中心に活動していますが、国への要望や提言を行う際には、全日病単独ではなく、四病院団体協議会（全日本病院協会、日本病院会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会）として協議を重ね、共同で要望書を提出することが多くあります。

昨年度は、「2026 年度予算に関する要望」と「税制改正に関する要望」の 2 つを国へ提出しました。

予算に関する最重点要望事項は、「物価変動及び人件費高騰に適切に対応できる診療報酬体系の創設」です。また、重点要望事項として、「職員の待遇改善による人材確保に資する予算措置」「物価高騰への対応」「災害や新興感染症に備えた強靱化に対する予算措置」「医療 DX の推進に向けた予算措置」などを求めています。

税制改正に関する要望では、長年の課題である「控除対象外消費税問題の抜本的な解決」を最重要課題として掲げています。国も診療報酬改定の議論の中で一定の理解を示しつつありますが、今後は日本医師会とも足並みを揃えながら要望を進めていくことが重要だと考えています。

そのほかにも、「医療機関に対する事業税の非課税措置・軽減措置の存続」や「認定医療法



人制度の存続」「持分のある医療法人医に係る相続税・贈与税の納税猶予・免除制度の創設」など、税制に関する 15 項目の要望を厚生労働省や各政党へ提出しています。

出口先生> 病院経営において、全日病が全国の病院の声を取りまとめ、現場の意見を国へ届ける重要な役割を担っておられることがよく分かりました。

続いて、2040 年を見据えた「新たな地域医療構想」について伺います。

今後は地域医療構想調整会議などにおいて、医療機能の分化・連携や集約化に向けた議論が本格化していきます。これは各病院にとっても、全日病にとっても極めて重要な課題です。

全日病として、この課題にどのように取り組んでいかれるお考えでしょうか。また、沖縄支部として、行政や沖縄県医師会をはじめとする関係団体とどのような連携を進めていかれるのか、お聞かせください。

銘苅先生> 全日病は公益社団法人として活動しており、沖縄県の「地域医療提供体制協議会」の構成団体の一つとして、地域医療の在り方に関する協議にも参加しています。今年度も先月、第 1 回の協議会が開催され、今後の進め方や方針について議論が始まっています。

現在、国では「新たな地域医療構想策定ガイドライン」が示されていますが、これはあくまで基本的な指針です。人口減少が進む地域と、

生産年齢人口が減少する一方で高齢者が増加する地域では、求められる医療提供体制は大きく異なります。

例えば、本島的那覇・浦添圏域では、2035年から2040年にかけて85歳以上の高齢者が現在の約1.8～2倍に増加すると予測されています。このままでは、救急病院が高齢患者で満床となり、本来受け入れるべき重症救急患者を受け入れられなくなることが懸念されます。

そのため、救急医療の拠点を集約すること以上に、高齢者を受け入れる病院や、急性期治療後の患者を円滑に受け入れる病院を充実させることが最も重要だと考えています。こうした体制を整備しなければ、地域医療全体が逼迫する可能性があります。

今後は、こうした課題を分かりやすく整理し、会員へ必要な情報を提供していきたいと考えています。また、高齢者を受け入れる施設には限りがあるため、病院から地域へ円滑に移行するためには在宅医療の充実も不可欠です。その意味でも、医師会との連携はますます重要になると考えています。ぜひ、在宅医療を担う人材の育成にも引き続きご尽力いただければと思います。

出口先生> 本会でも、急性期治療後の受け入れ体制や在宅医療の充実に力を入れて取り組んでいます。国の説明を聞いていると、「医療機関の集約化」が前面に出ている印象を受けます。しかし、その前に、今後20年間で急増する高齢者医療への対応や救急医療をどう維持していくかという課題を解決しなければならないと感じています。

地域医療構想のガイドラインでも高齢化への対応には触れられていますが、現場が直面する課題に対する具体的な議論は、まだ十分ではないように思います。

85歳以上の高齢者が大幅に増加する中、救急医療だけを集約しても地域医療は成り立ちません。高齢者医療や在宅医療の充実を図るとともに、医師会と全日病が連携し、それぞれの地域の実情に応じた持続可能な医療提供体制を構

築していくことが重要だと考えています。

それでは、少し話題を変えさせていただきます。

研修医をはじめ多くの若手医師が、全日病会員施設で臨床経験を積み、地域医療を支えています。こうした将来の医療を担う若手医師に向けて、先生からメッセージをお願いいたします。

銘苅先生> 全日病の会員施設には、高度急性期病院をはじめ、回復期、療養型、精神科病院など、多様な医療機能を持つ病院が加盟しています。

人口減少や医師養成数の見直しなど、医療を取り巻く環境は年々厳しさを増していますが、病院勤務医には、診療所では経験できない幅広い症例や多様な臨床経験を積むことができます。そうした貴重な経験を通して、多くのことを学び、優れた臨床医へと成長していただきたいと思います。

出口先生> ありがとうございます。

それでは、沖縄県医師会に対するご意見やご要望、また今後さらに連携を深めていきたい点などがございましたら、お聞かせください。

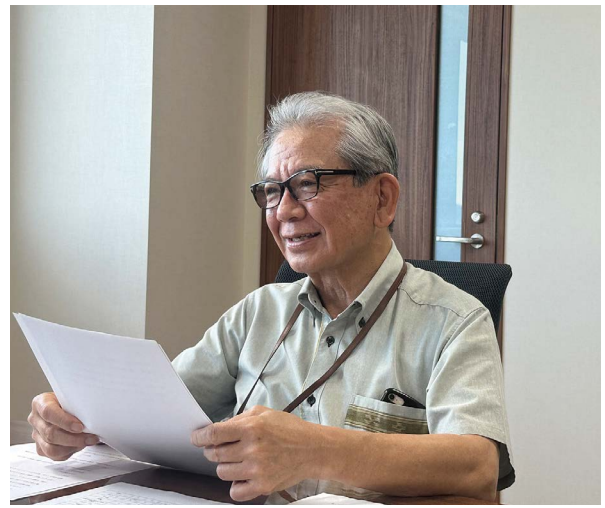
銘苅先生> 先ほども述べましたが新しい地域医療構想を進めていくには急性期の入院医療から在宅医療、介護までの連携が非常に重要で医師会や病院団体が一緒になって進めていかなければ非常に混乱をきたすと思われます。幸い田名沖縄県医師会長とも地域医療提供体制協議会でご一緒させていただいており、今後も密に連携が取れるようお願いしたいと思っています。

出口先生> ありがとうございます。

それでは最後に、このコーナー恒例の質問に移らせていただきます。

まず、先生のご趣味や健康法についてお聞かせください。

銘苅先生> 趣味というほどではありませんが、ゴルフは下手ですが普段室内で座っている



ことが多いので、屋外で月に1～2回ほどなるべくカートに乗らないように楽しんでいます。

健康法としては、とにかく階段を使うことですね。以前勤務していた病院でも現在の病院でも、エレベーターはほとんど使わず、4階や6階まで階段を2段飛ばしで上っています。もう長年続けていますので、ふくらはぎだけはアスリート並みの筋肉がついています（笑）

「エレベーターを使うようになったら氣力が落ちて仕事を辞める時かな」と思っているくらいで、体調が少し優れない日でも、できる限り階段を使うようにしています。

出口先生> すごい腓腹筋ですね。本当にアスリート並みです。毎日6階までエレベーターを使わず、しかも2段飛ばしとは驚きました。

それでは最後に、先生の座右の銘や大切にされている言葉がありましたら、お聞かせください。

銘苅先生> 座右の銘というほどではありませんが、「まくとぅそーけー、なんくるないさ」という言葉が好きです。「人としてやるべきことをきちんとやっていれば、何とかなる」という意味ですが、私は時に物事にこだわり過ぎたり、なかなか諦めきれない性格なので、最後はこの言葉で自分に区切りをつけています。

出口先生> 病院経営者にとっても、大変心に響くお言葉ですね。

PROFILE

略歴

- 昭和 51 年 3 月 県立那覇高校 卒業
- 昭和 52 年 4 月 大阪大学医学部 入学
- 昭和 58 年 3 月 大阪大学医学部 卒業
- 4 月 大阪大学医学部付属病院で研修
- 昭和 59 年 7 月 琉球大学医学部脳神経外科へ入局『その間沖縄赤十字病院、北谷中央病院（現北上中央病院）や県立八重山病院の脳神経外科開設に従事、平成 2 年 11 月～平成 5 年 2 月まで米国 LA (Huntington medical research institutes)へ留学』
- 平成 9 年 5 月 琉球大学医学部脳神経外科 退職
- 平成 9 年 6 月 浦添総合病院 脳神経外科 開設
- 平成 16 年 5 月 浦添総合病院 副院長（脳神経外科部長兼任）
- 平成 28 年 6 月 社会医療法人仁愛会 副理事長（脳神経外科部長兼任）
- 令和 2 年 4 月 社会医療法人仁愛会 理事長

現役職

- 全日本病院協会 沖縄支部長

資格

- 脳神経外科専門医
- 脳卒中専門医

所属学会

- 日本脳神経外科学会
- 日本脳卒中学会
- 日本脳神経外科コンgres
- 日本正常圧水頭症学会

本日は、先生のお人柄や考えがよく伝わる貴重なお話を伺うことができました。

お忙しい中、誠にありがとうございました。

インタビューアー：広報委員 出口 宝